

「道の駅」スタンプラリー（その2）

寒地土木研究所の勤務も約2年半が過ぎ、月報のサロン執筆も2010年3月号に続いて2回目目がやってまいりました。前回に引き続き今回も「道の駅」スタンプラリーについて書かせていただきます。今回は、記憶に強く残るラリーでの苦しかった思い出です。

○函館からのスタンプラリー

函館市内に勤務していた時にも、スタンプラリーに参加しました。それまでも、室蘭市と旭川市からラリーに参加したことはありました。特に、北海道の中心に近い旭川市は、日帰り行程で回るのに非常に都合が良い場所でした。各方面で端っこ道の駅までの距離と時間を抜き出しました。(H23.7.20時点で北の道ナビ (<http://n-rd.jp/>) を使い検索しています。距離、時間はそれぞれ距離優先、時間優先で検索した結果です。)

道の駅	旭川市から		函館市から	
	距離	時間	距離	時間
北前船松前	4 3 3 k m	6 時間 4 7 分	9 4 k m	1 時間 5 7 分
さるふつ公園	2 1 4 k m	3 時間 4 5 分	5 8 3 k m	9 時間 7 分
知床・らうす	3 0 6 k m	5 時間 3 7 分	6 7 5 k m	1 0 時間 5 9 分
スワン4 4 ねむろ	3 4 3 k m	6 時間 3 分	6 4 8 k m	1 0 時間 4 8 分
みついし	2 4 3 k m	3 時間 4 6 分	3 4 5 k m	5 時間 2 1 分

旭川市からだと、どこも頑張れば一日で回れるのですが、函館市からラリーに参加すると、特に道北・道東までが遠い……。週末にラリーに参加すると、一日中ひたすら移動をしており、日帰りは当然不可能で、途中で仮眠を取りながら、体力と精神力との限界に挑戦するよう有様でした。さらに、後志・檜山管内以外の道の駅が目的地の場合、苫小牧までは同じルートを通ることになり、毎回この区間は、作業のように移動を繰り返しています。これらの状況はもう観光と呼ばれる楽しそうなイメージのものからは大きく外れており、本人にとっても、これが楽しいのか非常に疑問な状態です。

○あおり道の駅麺ラリー

仙台市に住んでいる時には、「あおり道の駅麺ロード紀行スタンプラリー」という、青森県内のラリーに参加しました。東北「道の駅」スタンプラリーを夏までに終了し、その時に、このラリーのチラシを目にしたのです。概要は青森県内の道の駅26駅で麺類を食べてスタンプをもらうというもの。道の駅スタンプラリーが好きで、ラーメンが好きな私にとっては参加するしかない！と軽い気持ちで参加しました。仙台市から青森市は約350kmと距離も遠かったのですが、それ以上に大食漢でない私にとって、道の駅の営業時間内での食事数には限界があり、道の駅間の移動にはそれほど時間が掛からず、消化のための時間をいかに稼ぐかが大問題であり、仕方なく付近の観光地を回り健全に旅行っぽいことをしていました。最終的には、当初の軽く終わるとの目論見は崩れ、秋から冬にかけて青森を9回訪れることになりました。

今年も元気にスタンプラリーに挑戦し、原稿執筆時点7 / 20で56箇所、全体の半分の道の駅を回り、本稿が活字になる頃には完走している予定です。今年こそは、いかに楽しく残りのラリーを行うか、各地を回るかを心掛けたと思います。

(企画室長 畠山 乃)

* * * *

表紙左上記号 ISSN 1881-0497の説明

国際的なコード番号である ISSN (International Standard Serial Number : 国際標準逐次刊行物番号)は、ISSN ネットワークが管理する、逐次刊行物を識別するための固有の番号です。この番号は国立国会図書館 ISSN 日本センターから付与されたものです。